

**'98 TEXTILE DESIGN SYMPOSIUM IN 十日町**  
～ テキスタイルデザインにおける伝統と今日性～

- 1998年11月28日(土) 17:00～19:00
- 場所/十日町地域地場産業振興センター

<パネリスト>

- ・橋 喬子 (TDA理事)
- ・寺井 洋介 (TDA理事)
- ・梅田 幸男 (TDA常務理事)
- ・山内 誠 (TDA理事)
- ・川本 敦久 (TDA会員)
- ・山口 英夫 (TDA会員)
- ・小林 順二 (十日町デザイナー協会会長)
- ・小海 正哉 (株 明石 代表取締役)
- ・水落 邦夫 (十日町織物共同組合青年部会長)
- ・吉澤 武彦 (吉澤織物 株 代表取締役専務)

<コーディネーター>

- ・山口 道夫 (TDA副理事長)

(敬称略)



工場見学●辻ヶ花染制作

(財)十日町地域地場産業振興センター主催による「'98 デザインマインドフェア」が11月28日(土)～12月1日(火)の4日間にわたり開催された。

TDAは今回初めて金沢美大川本教授(TDA)のご紹介により、展覧会とシンポジウムに参画させて頂いた。

十日町は長い歴史と伝統に培われた「きもの」産地として広く知られている。

今回のシンポジウムは産地の交流と活性化を目的に開催されたもので、グローバル化時代には伝統産地はどう生き抜いてゆくか熱い議論がかわされた。



- 結論として山口英夫氏の発言に集約される。  
～伝統は守るだけでなく、新しく創造してゆくものである～  
以下、産地とTDAの意見を要約する。

**産地の意見として**

- 伝統産業としての「きもの」に誇りを持っている。  
今日まで活性化策を種々試みた。
- 「きもの」を着る機会をアピールし実行してきた。
- 「きもの」総合産地として、和装小物等の産業育成が必要ではないか、現在は仕入れ。
- 十日町としての個性を発揮して京都にない商品を出してゆきたい。
- 「ユカタ」は若い女性に人気があるが、「きもの」に結びついていない。
- 「きもの」が売れない原因は「価格が高い」。  
買いやすくするにはどうしたら良いのか。
- 企画・営業を主力に外注政策で、適量生産をしている。
- 人材育成として小学生時代に工場見学等で染織になります。
- コモ(イタリア)に学ぶべきである。  
～消費者が何を望んでいるか、産地は敏感に反応すべき～  
伝統と革新は両論である。

**TDAの意見として**

- ファッションリーダーは若者である。  
キーワードは「BOBOY」素材が軽く、着心地が良い。  
例えば「ユカタ」がヒットしたのは、非日常的・イベント志向・着やすい・吸水速乾性等が若い女性に受け入れられたのである。
- 日本の「ストリートファッション」はファッション発信地——ヨーロッパからも注目されている。  
十日町産地では?
- 若者はモトリアム(成熟)に対して拒否している。  
又大半は日本人の感性でなく、外国人的なとらえ方をした方がよい。
- 着て楽しい＝着てゆける場を広げる  
ライフスタイルに合わせてつくり手が提案してゆく。
- 人材育成として若年層だけでなく、企業トップの研修も必要。
- 産地志向だけでなく、例えば加賀友禅のような一品制作の視点もいものではないか。



- 産地として「日本の枠組み」から抜けきれていない。  
今後国際的な発信はどうするのか。
- 「きもの」ファッション・「きもの」テキスタイルの多様な展開発想が必要ではないか。
- 「きもの」のスタイルを否定することは、「きもの」を否定することである。  
～素材・着心地を重要なファクターとしてとらえた方がよい。
- 大学で和装を教える先生が少なくなってきた。
- ファッションの世界ではテキスタイルが60%位左右する。
- 小さな企業でも世界をリードできる。
- 「きもの」を文化としてとらえた場合の提案は。
- 30代の現在「きもの産地」で良い時代がなかった。  
モノを作る時に「売れる」「売れない」だけの発想だけで良いのか。  
「モノ作り」は「ゴミ作り」になっていないか考え直す必要がある。
- 「きもの」を変えるか、「産地」を変えるか。
- 厳しい冬の時代に、どう寒肥をやるか、春に花の咲き方が違う。

後半に橋 喬子氏から

「現代の女子学生の意識・価値観・行動に関する一考」のテーマで、OHPによる解説がされ、生活・経済・価値観・購買行動等のデータが発表され、参加者の興味を引いた。

**リポーターの感想として**

- コーディネーターの山口道夫氏のたぐみな進行により、「きもの産地」としての本質的な掘り下げがなされた。  
参加者の一員として、次回に期待したいテーマとして、
- ①基本的に最盛期の20～30%まで十日町で「きもの」生産が下がっている。  
210への経済展望は?
  - ②「きもの」の流通について、及び価格政策
  - ③「きもの文化」とは何? 又人材育成について。
  - ④産地十日町の「きもの」関連の技術・設備・デザインを生かした商品企画について。
  - ⑤十日町のオリジナリティとは＝グローバル化時代に対応できるか。
  - ⑥ユーザー動向——マーケットインの発想について等。

(レポート 近沢 晴雄)